



4月25日 熊本被災地への職員派遣
(市役所駐車場)



三島市制施行75周年記念式典

4月29日 三島市制75周年記念式典
(市民文化会館)



5月10日 来訪者100万人達成セレモニー
(市総合観光案内所)



5月15日 地域花壇お披露目会
(三恵台入口)



4月14日 防犯教室
(北小学校)



4月17日 育メン教室
(保健センター)



5月15日 ラーメンフェスタ
(楽寿園)



4月23日 中央水道跡公園お披露目会
(本町)



4月26日 藤の花と蜂
(塚原新田)



5月5日 春の大通り商店街まつり
(大通り商店街)



4月23日 みしまブックフェス(楽寿園)



4月23日 春の楽寿園



4月19日 ネモフィラの花畑(伊豆フルーツパーク横)

三島宿の職業分布

郷土資料館では、七月三日(日)まで企画展「三島宿と三嶋曆」を開催しています。そこで今回は三島宿界隈での職業について紹介します。

天保十三年(一八四二)の内容と推定される『三島宿街並絵図』(図①)には東海道沿いに並ぶ家々とその職業が書き込まれています。三島宿の職業分布を記した資料はほとんど残されていないため、とても貴重です。

記された職業をまとめたものを表(表①)にしました。宿場町らしく宿泊業や運輸業に多くの家が従事しています。絵図を詳しく見

▲図①『三島宿街並絵図』

(伊豆の国市(公財) 江川文庫所蔵)



▲表①三島宿の職業分布

区分	軒数
農業	106
製造業	36
建設業	15
卸・小売業	122
運輸業	38
宿泊業	86
飲食業	18
その他サービス業	15
無職	6
空地・空家	12
合計	454

ると、宿場町の中心部には本陣・脇本陣・旅籠屋(食事を提供する旅館)が多く、木賃宿(食事は自炊で料金が安い)は東部に多くあることがわかります。飲食業では東西の端に蕎麦屋があります。また、三嶋大社前には茶屋が並んでおり、浮世絵『五十三次名所図会』(図②)で描かれているように、多くの客でにぎわう様子が想像されます。これらのことから、飲食業の多くも宿場町に関連のある職業であると考えられます。

軒数では卸・小売業が最も多く、荒物、小間物、青物、魚、酒醬油、穀物、古着・古道具、たばこ、薬など、さまざまなものを扱う店があります。製造業には菓子、豆腐、酒造、鍛冶、紺屋(染物屋)、紙漉など、建設業には大工、畳職、左官などがあります。卸・小売業、製造業、建設業は広小路より西と三嶋大社より東に多く立地してい

ます。

このように三島宿では宿場町特有の職業以外にも多様な職業が営まれていました。このことから、三島宿は宿場町としてだけでなく、近隣の村の人たちが、さまざまなを手に入れることができた町としても重要であったということがわかります。

また、この時代の地方都市はその後背に多くの田畑を抱えていた。三島宿も例外ではなく、他の絵図などを見ると道路沿いに立ち並ぶ街並みの後ろに田畑が広がっているのがわかります。表①からも農業中心の家が全体の四分の一度を占めており、三島宿では農業が重要な産業であったことがわかります。

今回は宿場町としてだけでなく、さまざまな機能をもって栄えていた三島宿の様子を紹介したいと思います。

▲図②『五十三次名所図会』



三島の村名⑥

御園

(中郷地区)

蔵六寺

亀霊山蔵六寺は、前回ご紹介した神明宮から少し歩いた先にあるお寺です。臨済宗円覚寺派のお寺で、地藏菩薩を本尊としています。同寺の創建は古く、天文二年(一五三三)に土地の土豪であった後藤石見守が正厳和尚を招いて開山したと伝えられます。

寺伝によると、この正厳和尚とは、戦国大名小田原北条氏の家臣・笠原新六郎のことでありとされています。笠原新六郎は、かつて清水町徳倉にあった北条氏の支城(本城のほかに領内に設けた城)・徳倉城の城主でした。新六郎は戦国の動乱の最中、一度敵方の武田勝頼に降りましたが、その後、武田氏の形勢不利を見て再び北条氏のもとに戻ることにしました。そののち出家して蔵六坊と号し、御園村の十王堂に身を寄せたといひ、その十王堂が蔵六寺の起りであるといわれています。



▲蔵六寺